

ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業

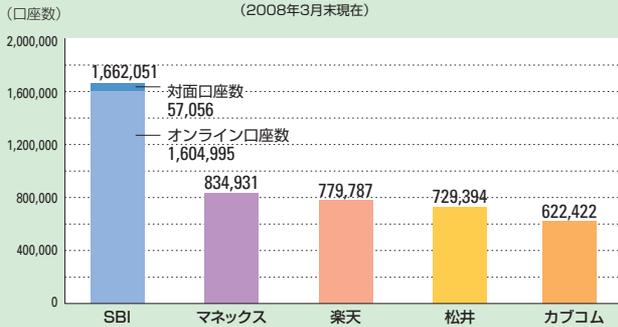
『株式市場における圧倒的シェアを基盤として、『リアル Based on ネット証券 (ネット証券をベースにしたリアル証券の融合)』という新しいビジネスモデルを追求』

ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業の主要企業

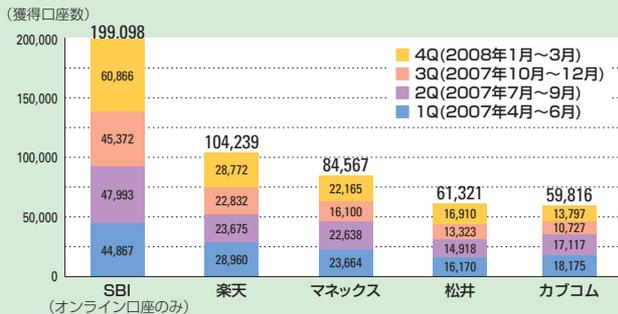
- ・ (株) SBI証券 (2008年7月1日にSBIイー・トレード証券 (株) より商号変更) / オンライン総合証券
- ・ SBIフューチャーズ (株) / 大証ヘラクレス (Code: 8735) : オンライン商品先物取引業
- ・ SBIジャパンネクスト証券 (株) / 私設取引システム (PTS) 運営
- ・ SBIファンドバンク (株) / 投資信託に特化した金融商品仲介業

主要オンライン証券の口座数比較

主要オンライン証券5社の口座数
(2008年3月末現在)



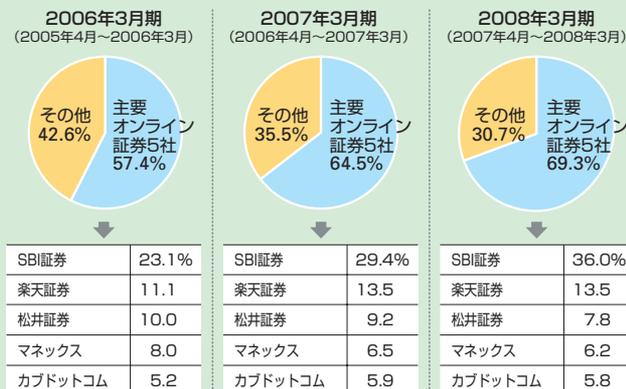
2007年4月～2008年3月の1年間の獲得口座数



出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
 ※ マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算
 カブドットコム証券は2006年1月1日にMeネット証券と合併
 SBI証券 (旧SBIイー・トレード証券) は2007年10月1日に旧SBI証券と合併

主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

～主要オンライン証券5社中、SBI証券のみ更に大きくシェアを伸ばし、過去最高水準へ～
個人株式委託売買代金シェアの推移



出所: 東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
 ※ 個人株式委託売買代金は3市場 (1・2部) とJASDAQを合算
 カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併
 SBI証券 (旧SBIイー・トレード証券) は2007年10月1日に旧SBI証券と合併

顧客中心主義を徹底し、「業界最低水準の手数料体系と業界最高水準のサービス」を提供し続けるSBI証券は、顧客口座数、株式委託売買代金、預り資産において、オンライン専門証券の中でトップの地位を確固たるものとしております。

このような状況の中、総合証券への発展を目指して2007年10月1日に旧SBI証券と合併いたしました。今後は、ネットと対面販売という2つのチャネルを相互に補完する、日本国内で初めてとなる「リアル Based on ネット証券 (ネット証券をベースにしたリアル証券の融合)」という新たなビジネスモデルの構築を追求しながら、ブローカレッジにおける圧倒的シェアを背景としたインベストメントバンキング事業並びにホールセール事業をさらに強化してまいります。

なおE*TRADE Korea Co., Ltd.につきましては、韓国証券業界において競争激化が見込まれること、ならびに成長が期待できる他のアジア諸国において証券事業等を今後展開していく予定であることを踏まえ、SBI証券が保有していた全株式の譲渡を決定いたしました。この決定に伴い、SBI証券において2008年3月期に約15億円の繰延税金負債を計上しております。なお、この売却の手続きは2009年3月期の第2四半期に終了する予定です。

オンライン証券業界における揺ぎないポジショニング

SBI証券は、2006年1月にオンライン証券業として初めて顧客口座数100万口座を突破して以降も、順調に顧客基盤を拡大させており、2008年3月末現在では1,662,051口座に達し (前年同月末は1,405,897口座: オンライン口座のみ)、オンライン専門証券トップの口座数を有しております。

また、2008年3月期第4四半期 (2008年1～3月) における獲得口座数は6万口座を超え、2007年3月期第1四半期 (2006年4～6月) 以来の高水準となるなど、再び増勢を強めております。

拡大する株式委託売買代金シェア

2008年3月期は不安定な市況の影響を受け同業他社の株式委託売買代金が減少する中で、顧客満足度の高い商品・サービス・手数料体系の提供に努めてきた結果、主要オンライン証券の中でSBI証券だけが株式委託売買代金を2007年3月期比で増加させており、2008年3月期通期の個人株式委託売買代金シェアは36.0%と過去最高の水準に達しました。

また、機関投資家や外国人からの委託を含む株式委託売買代金全体においても、対面証券を含めた国内全証券会社の中で引き続き第1位となっており、2005年3月期第4四半期に野村証券を抜いて以降、四半期ベース13期連続でトップの地位を維持し続けております。

収益源の多様化

SBI証券は、圧倒的な顧客基盤を背景に収益源のさらなる多様化を進めております。

インターネット信用取引の順調な拡大や金利の上昇により、2008年3月期の金融収益は前年度比24.5%増の21,743百万円と、大幅に増加いたしました。

また2008年3月期のIPO（新規株式公開）の引受社数は、全証券会社中第1位の58社となり、その他にも投資信託の取り扱い拡充、外国債券の販売強化や外国為替保証金取引の拡大等を進める一方、新たに海外ETFや投資型年金保険の取り扱いを開始するなど、今後も顧客ニーズに合った多種多様な商品・サービスの提供を続け、一層の収益源の多様化を図ってまいります。

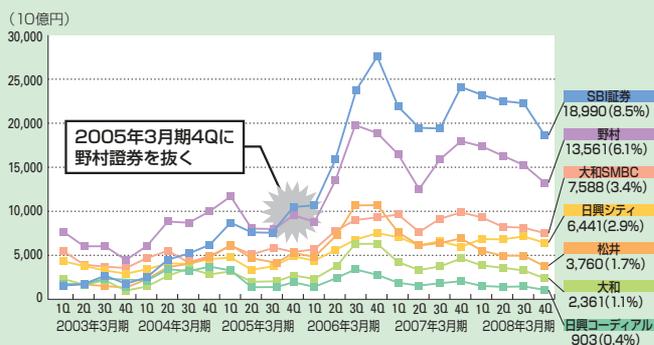
SBIジャパンネクスト PTS

2007年8月27日に、SBI証券を含め証券会社3社の取引参加にてスタートした「SBIジャパンネクストPTS」の取引売買代金は、先行他社を大きく上回り、順調に推移しております。2008年4月に楽天証券が取引を開始し、同年6月にオリックス証券も接続を開始しており、今後も参加証券会社は順次拡大する予定です。

さらに、2008年3月には、NYなど米国市場の取引時間とオーバーラップする時間帯を延ばすため、取引時間を従来の23:59分までに加え、翌日の0:30から2:00までの時間帯を追加し、更なる投資機会の拡充を図っております。また、昼間取引を行うべく、今年中の開始を目標に、金融庁への調整を含めシステム面および運用面の準備に係るプロジェクトを現在進行させており、個人投資家および機関投資家ともにそのすそ野はさらに大きく拡大するものと思われま。

3大証券会社との株式委託売買代金比較

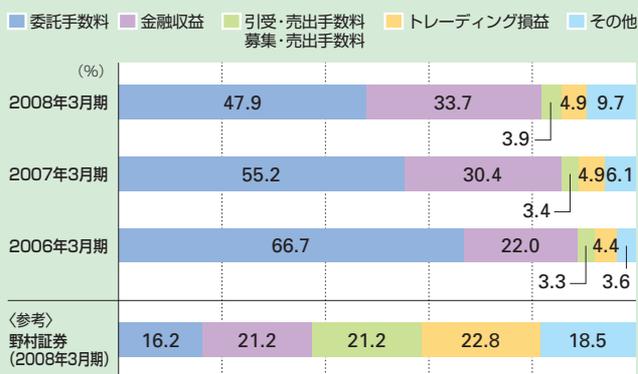
各社の株式委託売買代金の推移



出所：証券会社各社・東証の公表数値をもとに当社作成（SBI証券分には海外投資家からの注文を含みます）
（単位：10億円、括弧内は2008年3月期4Qにおける各社委託売買代金を3市場委託売買代金合計で除したシェア）

市況に左右されない収益体質の構築

SBI証券 営業収益（連結）構成比推移



※野村証券は国内基準の決算資料より抽出

「SBIジャパンネクストPTS」取引拡大へ向けた取り組み

取引時間の拡大 米国市場の取引時間とオーバーラップする時間帯を延ばし、投資機会の向上を図る (08/3/31より新規に取引時間を拡大)



また、昼間取引を行うべく、金融庁への調整を含めシステム面および運用面の準備に係るプロジェクト進行中

- ▶ 今後30億円の増資を予定
- ▶ 取引時間は8:10~16:30まで連続することを想定
- ▶ 08年10~12月の開始をターゲットとして現在準備を進行中